

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要（事業所記入）】			
事業所番号	4271600746		
法人名	社会福祉法人 新上五島町社会福祉協議会		
事業所名	グループホーム さくら さくら通り		
所在地	長崎県南松浦郡新上五島町青方郷1379番地1		
自己評価作成日	令和4年10月1日	評価結果市町村受理日	令和5年1月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 4年11月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

御利用者が常に笑顔で過ごせるよう、支援を行いながら共に生活をしています。コロナ禍で難しい状況ですが、ドライブやさくら内での行事を実施することで、生きがいや楽しみをもって頂けるよう支援しています。今年度は中止となりましたが、さくらの大きな行事に「さくら祭り」「さくら旅行」があり、家族や地域との交流の場となっています。このような毎日の状況を「毎月の行事予定」や「さくら新聞」に掲載し、家族や行政、運営推進会議委員に送付、持参し周知をお願いしています。また、御利用者の身体の不安や、職員の精神的負担軽減のため、訪問看護との契約も継続し、受診や終末期の相談ができる体制を作っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家庭の延長としてのグループホーム、利用者の思いを尊重するケアの実践を目指して「ささやかな幸せ共に分かち合い くらす我が家に らんまんの笑み」という理念を掲げている。さくら祭り・さくら旅行・喫茶の日など生活を彩るさまざまな行事を行っていることは事業所の特長である。新型コロナ禍で行事に制約があるものの、利用者は自由に外出することができ、職員はその都度付き添っている。また島内へのバスハイクを企画し、楽しいひと時を過ごしており、利用者の「笑顔」を引き出す取組みは、高く評価できる。現在も対面で開催している運営推進会議には、亡くなった利用者の家族が参加しており、強い信頼関係が窺える。法人のバックアップのもと、職員は資格取得に積極的に取り組んでおり、全職員が「笑顔」をキーワードに、誇りを持って介護に取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員、運営推進会議委員で理念を作り、常に目に入る位置へ掲示し、全員が理念を共有している。新人へは入社時と会議時に理念の意味、必要性について説明している。	町村合併を機に、職員・運営推進会議委員で事業所の理念を策定している。施設長がグループホーム本来の姿だと考える「家庭の延長上にある地域に根差したケア」の指針となる理念である。全体会議の場で理念に基づいたケアのあり方を検討し、職員への周知を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くに保育園や民家があり、散歩等、戸外で交流している。また近所の商店を利用し顔見知りの関係が出来ている。コロナ禍で中止しているが地区の敬老会への参加や学生との交流等も行っている。	新上五島町社会福祉協議会が事業主体であり、協働して地域の福祉拠点となっている。大学の実習生の受入れや近隣の小学校から児童が訪問している。新型コロナ禍以前は、「さくら祭り」を開催しており、現在も散歩時の地域住民との交流は継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で減少しているが、関係者等に行事案内を送付し、家族や知人が来訪する事で認知症の人の理解をして頂いている。また、学生向けの研修や認知症初期集中支援チームでの研修を実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二カ月に一度開催している運営推進会議では、御利用者の状況報告や活動報告を行い、意見や助言を頂いている。頂いた意見等はさくら会議で職員へ報告し、サービスへ繋げている。	新型コロナ禍以降も対面で会議を開催している。民生委員、住職、支所長、包括支援センター職員の他、家族OBも参加して活発な意見を交わしている。亡くなった利用者の家族の参加は、特筆すべきである。ただし、会議内容についての家族への報告は口頭で終わっている。	運営推進会議の議事内容を家族に報告し話題にすることで、会議に出席していない家族からの意見も得られることが期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加、毎月の便りの持参等で連絡を取っている。認知症初期集中支援チームの会議や地域ケア会議、町主催の研修への参加等も行い、協力関係も密に行われている。	役場や包括支援センター職員、認知症リーダー研修会受講メンバーが集まって「にこネット」という組織を作っており、地域の人々を皆で支えていこうという取組みを推進している。施設長は県のグループホーム連絡協議会の実行委員を務めている。県・町からの研修はオンラインが主である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	オンライン研修やさくら会議等で、身体拘束について勉強を重ねている。また、行動制限が行われないよう常に取り組んでいる。玄関は夜間防犯上施錠しているが、日中は常に開錠している。	2ヶ月ごとに全職員で虐待防止委員会を開いている。日々のケアの中で気になる事例が発生した時にはその都度検討・指導を行っている。玄関は開錠しており、利用者は自由に外出することができ、外出時には職員が付き添っている。センサーマットは夜間のみ使用である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	二カ月に一度の会議の中で、虐待防止委員会を中心に虐待や拘束について勉強会を実施している。オンライン研修の報告や、ヒヤリハットノートを利用した事例検討も実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業、成年後見制度は以前さくら並木の御利用者が利用されていた。最近では社協の全体会議で勉強会が実施され、必要な御利用者には、活用し対応できる体制が出来ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、見学時から詳しく説明し、疑問点等が残らないよう配慮している。また、改定等の際は文書にて送付し同意書を頂いている。疑問点等は面会時に回答または電話にて対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に話せる雰囲気作りを行うようにしている。玄関には苦情箱を設置し要望等を記入できるようにしている。また御利用者の要望は普段の生活からくみ取っている。運営推進会議では家族から意見を頂いている。	管理者は、利用者の要望に常に耳を傾けている。家族と職員は、普段から気軽に話し合える関係である。新型コロナ禍前は、家族も交え利用者との旅行を企画していた。現在は、時間制限はあるものの、面会は可能であり、家族の来訪時に要望を聞き取っている。利用者の服装について家族から意見があり、会議の議題にした事例がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	社協の全体会議、さくら会議の際、意見や提案を伝える事ができる。夜勤等で参加できない時は事前に管理者へ伝え、代弁して頂いている。また管理者が出勤の日には、勤務中でも事務所に個別に意見や提案等を話す事ができる。	管理者は、普段から職員からの相談を受けることが多く、互いの信頼関係が窺える。職員は、朝夕の引継ぎを始め、事業所や法人全体の会議の際に意見を述べている。資格取得に対する旅費等のバックアップの要望が受理され、複数の職員が受験している。有給休暇の取得にも理解があり、働きやすい労働環境である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境については、個別相談、会議での提案ができる体制になっている。勤務では公休や年休の希望を提出し、個々の状況に応じた勤務を作成して頂けている。また、年二回の健康診断も行われている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内は事業所の回覧に置かれ、行きたい研修は希望を出している。今年はほとんどオンライン研修で実施されたが、濃厚接触者など職員不足も重なり、当初の研修予定通りには研修参加はできていない。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町の開催する勉強会等で交流する機会はあるが、コロナ渦で減少している。また同業者との交流やネットワーク作りの為の視察研修も、コロナ渦で三年実施できていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にはケアマネからの事前情報を元にニーズの把握に努めている。入所後不穏時は、気持ちが落ち着くまで耳を傾け安心して頂けるよう努力している。事務所に傾聴することを掲げ、日頃から実践している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の段階で、さくら入所前の状況や思い、これからの要望などを、御利用者本人や家族、ケアマネ等から詳しく伝えて頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所申込から契約までに、入所以外に方法はないのか、他サービス利用はできないのか等、御利用者や家族を含めて話し合いを行い、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念に掲げ、共に生活できるよう心掛けています。掃除や洗濯、茶碗洗いや買物等できる事を共に行ったり、会話をしながら食事をする等、普段の生活を一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に現在の様子を伝えたり、家族の方の意見や本人の意向を伺いながら一緒に計画を立てたり、飲物を飲みながら家族との会話が楽しめるよう配慮を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域巡り等での地元訪問時には、知人等に連絡を取り、一緒に過ごせるよう努めている。入所前に通っていたディサービス等で馴染みの方と話す機会も作っている。月一回の神父様の訪問もコロナ感染症等の状況を見ながら継続している。	新型コロナ禍前は、「地域巡り」として帰宅し、母の日には家族から花や贈り物が届いている。中止となっていた神父の訪問を再開し、車で教会の周囲を巡っている。正月の書初めをはじめ、編み物が好きな利用者がソファカバーを編んだり、玄関前にプランターで花を育てたりと趣味を継続できるよう支援を行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず 利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努 めている	御利用者の性格等を把握し、座る位置を考 えたり、一緒にできるレクリエーションを考えたり している。また、御利用者が不快な思いを したり孤立したりしないよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性 を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過を フォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、さくら祭りやさくら旅行、運営 推進会議等に参加して頂いている。また、さ くら回りの草取りや畑などを気にかけ、手伝 いに来て頂いている。商店や病院等でお会 いした時には声掛けし、話をしたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努 めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の生活の中で、会話や行動、表情の把 握を心掛けている。モニタリング表や連絡帳 を活用しながら、スタッフ全員で共有し、御 利用者が訴えた事を実践できるよう努めて いる。	利用者との会話の内容は、業務日誌に記録し職 員間で共有を図っている。聞き取りが困難な場合 は家族に尋ねたり、筆談で思いを汲み取って いる。貼り絵をしたいという利用者の気持ちを汲み取 り、大作ができています。理美容院にカットに行きた い、畑仕事をしたいといった要望もあり、可能な限 り実現できるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、こ れまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人カルテに基本情報を載せ、スタッフが共 有できるようにしている。また、日頃の会話 の中で聞いた内容を記録し、把握できるよう 努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等 の現状の把握に努めている	一日の中で個々の出来る能力が発揮できるよ う努めている。無理強いせず、本人本位で行 うよう促している。また、チェック表を活用しバ イタルや食事量を把握している。必要な御利 用者はカロリーや体重、水分量のチェックも実 施している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方につ いて、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの 意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作 成している	御利用者本人、家族からの意向を聞き、介 護計画を作成している。また、モニタリング 結果やケアの状況をさくら会議の中で報告、 検討し、介護計画に活かしている。	入居時に本人・家族から生活歴や意向等をヒヤリ ングし基本シートを作成している。最初の1ヶ月は 暫定プラン、その後は3ヶ月、6ヶ月ごとに目標を設 定しケアに活かしている。月に1回モニタリング会 議を開き、現状に即したケアの実践に努めて いる。ただし、家族には介護計画を口頭で説明して いるものの、計画書を渡していない。	介護計画書を基に利用者のケアについて 家族もチームの一員として一緒に考える 関係性の構築が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別 記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介 護計画の見直しに活かしている	御利用者の発した言葉の記録を行い、モニ タリング表や業務日誌、ヒヤリハットや個人 カルテの共有を行い、実践や介護計画の見 直しに活かしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常の介護以外に生まれるニーズに対応する為、管理者はフリーで動ける日を設け、美容室や買物に出かけたり、地元へ出かけたり等、柔軟に対応できるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ渦で減少しているが、ボランティアの来訪や近隣の方の来訪、地域で実施している敬老会等への参加、学生との交流等、御利用者が楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時には現在の状況を細かく報告している。家族同行時には情報を共有し、家族が直接、意向や意見をDrに伝えて頂く事もある。かかりつけ医とは訪問看護契約を結び、小さい事まで相談できる関係が出来ている。	事業所では受診は上五島病院が主となっており、通院は職員が付き添っている。また、訪問看護師と契約し週1回の訪問の他、利用者の状態に応じた対処法の助言を得ている。更に正看護師の資格を持った職員が、夜勤専属で勤務しており、適切な医療を受けられるように支援していることが、見てとれる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	さくらの看護師が不在時には、隣接する社協の看護師に相談したり、毎週来訪する訪問看護へ相談している。訪問看護ノートや連絡帳を活用し、スタッフ間で共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	コロナ渦で制限はあるが、入院時は毎日面会に行き、状況を伺い、HPノートを活用しスタッフ間で共有している。地域連携室とは密に連絡を取り、早期退院を促している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の変化に応じてカンファレンスを開き、Dr、看護師、訪問看護、本人や家族と共に方針を共有し支援している。終末期には個別に訪問看護契約を結んで頂き、安心して過ごせるよう支援している。	入居時に重要事項説明書にて重度化・終末期の方針について説明している。終末期を迎えた時点で家族と検討し、改めて意向を確認しており、病院からの同意書に沿って看取りを行っている。看取りの際には全職員で見送っている。最期の支援についてマニュアル・フローチャートを整備している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置し急変時の対応を実施している。AEDの講習は初任者研修、消防での研修の他、さくら会議等で実施している。また、急変時は緊急時のマニュアルに沿って対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	コロナ禍で消防立会いが出来ない状況が続いているが、年二回の避難訓練の実施を行っている。内、一回は夜間想定で実施している。御利用者や家族、近隣の方の参加も可能な時はお願いしている。	災害対策マニュアルを策定し、年2回避難訓練を実施している。内1回は夜間想定訓練である。コロナ禍以前は地域・家族にも呼び掛けて訓練に参加していた。BCPを作成しており、台風・水害の際の避難場所は隣の建物もあるものの、事業所が堅牢で2階への避難を考えている。ただし、そのための垂直避難訓練は行っていない。	利用者の状態の変化に応じて避難の方法も検討することが必要である。近年多くなっている自然災害についても詳しい対策が求められるため、垂直避難訓練の実施に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	できるだけゆっくりと、わかる言葉で話すよう心掛けている。人生の先輩という事を忘れず、御利用者の自尊心を傷つけないよう対応している。特に入浴介助や排泄介助ではプライバシーに配慮している。	利用者の呼び方は苗字にさん付けであり、本人の意向に沿って名前で呼ぶ場合は、ケアプランに記載している。職員の言葉遣いが強いと感じた場合は、管理者がその都度注意を行っている。家族から便り等に掲載する写真の同意書を取っており、テレビの取材時等には、その都度許可を得る方針である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	答えを早く出して貰おうとせず、選択肢を設けたり、考えて頂く時間を作るよう努めている。会話の中で思いを感じ取り、自己決定出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本的な流れはあるが、個々のペースやその時の状況に応じて対応するようにしている。不穏時は散歩等で気分転換を図ったり、ゆっくり話を聞いたりする時間を作り、支援するよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	HPや行事等、外出時はマニキュアや化粧、アクセサリ等でオシャレをしたり、毎日同じ服装にならないようスタッフと選んだり、整容や爪切りなどの身だしなみにも気をつけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ禍で減少しているが、一緒に買い物へ行き食材を選んで頂いたり、米とぎや野菜の皮むき、もやしの根切りや茶碗洗い、テーブル拭き等、個々に応じた内容を一緒に行っている。	利用者と調理の準備に参加している。きざみやとろみ食にも対応できている。夏の素麺流しや冬の鍋等季節感を大切にし、郷土料理やカップラーメンの日を設ける等、バラエティに富んだメニューである。誕生日には、本人のリクエストメニューで祝っている。差入れの野菜を調理する時もあり、食事が楽しい時間となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は毎日チェック表に記録し把握している。個々の状況に応じてカロリー制限、水分制限、トロミ食やミキサー食、キザミ食の提供を行っている。食事量が少ない時には、ゼリーやプリン、お菓子等で補食をして頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る方は自分で口腔ケアをして頂くが、無理な方は介助で実施している。歯ブラシやモアブラシ等で個々に応じた口腔ケアを実施し、就寝前には義歯を外し、洗浄剤につけ清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時間、量などを排泄チェック表に記入し、個別に管理することで、排泄パターンを把握し、時間誘導を実施している。また、残存能力を活かし、トイレやポータブルトイレでの排泄が行えるよう支援している。	排泄の自立を基本とし、トイレでの排泄ができるよう支援を行っており、布の下着を着用している利用者もいる。ポータブルトイレは、夜のみを使用を原則とし、職員による消毒液での洗浄で清潔を保っている。会議では、パッド類の検討をを重ねている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に食物繊維のある根菜や、乳製品を取り入れたり、お腹周りの運動を実施したりしている。HPで相談し、便剤を利用する御利用者もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	人員不足で入浴できない日もあるが、出来る限り、毎日入浴できる環境を整えている。御利用者に応じて終末期の方はカロリー消費を考慮し、数日おきに入浴したり、便の失敗があった場合はそのまま入浴したり等、臨機応変に対応している。	風呂は毎日沸かし、週に数回入浴の支援を行っている。入浴しない日は必ず清拭を行い、清潔保持に配慮を行っていることは、特筆すべきである。拒否をする利用者には、声掛けを工夫することにより、無理なく誘導している。また、看取り支援に入った利用者も、職員2人の介助により入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は体調や習慣に応じて対応し、横になりたい御利用者は居室で休まれたりされる。夜間は空調や採光、騒音等に注意し、気持ちよく眠れるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院受診の都度HPノートに記載し、処方箋内容を個人カルテに添付している。服薬変更がある場合や病状説明があった場合は特に留意し、周知をしている。薬には誤薬がないよう日付を記入し、何重にもチェックを行い、服薬して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理が好きな方は調理下ごしらえ、洗濯が好きな方は洗濯物干し等、個々の好きな事や得意な事を把握し支援している。また、散歩やドライブ等を日々の生活の中に取り入れ、気分転換できるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い日は屋外に出て、行きたいところに行けるよう支援している。コロナ禍で減少しているが、年一回の家族旅行や教会巡り、地元巡り等、家族に協力頂いて実施をしている。	日常的に、利用者は事業所の周辺を散歩している。春には前庭で花見を行い、記念撮影を行っている。「喫茶の日」と称し、町内の喫茶店でケーキを食べる行事は恒例となっている。また、島内のドライブを数回実施し、皆で弁当を食べ楽しいひと時を過ごしており、新型コロナ禍であっても、利用者が楽しめるよう企画し支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本は家族が管理されている。希望者は預り金の中でスタッフと買い物に出たりする事もある。また、年一回は買物ツアーを行い、自分で選び支払いをする支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば御利用者自ら電話することもある。携帯電話を所持されていて、毎日のように連絡を取り合っている御利用者もいる。年賀状は全員が何かしらの記入をし、子供や孫に出されている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季に合わせた雰囲気作りに努めている。室温や採光に配慮し、居心地よく過ごせるよう工夫している。壁や玄関の飾り等、毎月スタッフが変更したり、御利用者で作成したりして季節感のある空間となっている。	施設は回廊式で、どこを通ってもリビングルーム、キッチンの共用空間に繋がっている。空気清浄機やエアコン、カーテンやパーティションで快適な環境を整えている。利用者が編んだソファカバーや貼り絵、中学生からの手紙、クリスマスツリーが飾られた居心地のよい空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	時間帯によっては一人になりたい御利用者が居室で過ごす事もあるが、リビングで過ごされる御利用者が多い。テレビを見たり、家事手伝いをされたり、おしゃべりをしたり個々で自由に過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御利用者によっては、家族の写真やマリア像を置かれたり、テレビやソファを置かれたり等、使い慣れたものや馴染みのものを持ち込んで頂いている。衣替え等、家族と一緒に頂いている御利用者もいる。	利用者の思いを大切にした居室となっている。書初め・仏画などの制作物、プレゼントのぬいぐるみ、家族写真やお祝いメッセージ、マリア像などが飾られ、本人らしい個性的な居室である。敢えてシンプルな部屋を好む利用者にも意向に応じる等、利用者本位の配慮は特長である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで手すりを設置し、出来る限り自力歩行をして頂いている。廊下には妨げるものを置かないよう配慮している。自分の部屋には表札やカレンダー、時計を設置し、廊下にはトイレの場所を知らせる貼り紙を貼って工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要（事業所記入）】			
事業所番号	4271600746		
法人名	社会福祉法人 新上五島町社会福祉協議会		
事業所名	グループホーム さくら さくら並木		
所在地	長崎県南松浦郡新上五島町青方郷1379番地1		
自己評価作成日	令和 4年10月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 4年 月 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

御利用者が常に笑顔で過ごせるよう、支援を行いながら共に生活をしています。コロナ渦で難しい状況ですが、ドライブやさくら内での行事を実施することで、生きがいや楽しみを持って頂けるよう支援しています。今年度は中止となりましたが、さくらの大きな行事に「さくら祭り」「さくら旅行」があり、家族や地域との交流の場となっています。このような毎日の状況を「毎月の行事予定」や「さくら新聞」に掲載し、家族や行政、運営推進会議委員に送付、持参し周知をお願いしています。また、御利用者の身体の不安や、職員の精神的負担軽減のため、訪問看護との契約も継続し、受診や終末期の相談ができる体制を作っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の目の留まる場所に理念を提示している。利用者や家族が少しでも安心出来る様に、時々会議等で理念を振り返り、良いサービスを提供出来る様に心がけるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は各地域の敬老会や行事、夏に事業所の祭りを開催できたが、今年はコロナの影響もあり家族との面会等も出来ない。コロナ禍で難しい点もある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で難しい点もあるが、以前は事業所の夏祭りへの参加の呼びかけにチラシを配布していた。家族もだが、民生委員や行政に毎月機関紙を発行している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議にて、ホーム内での取り組みや現状を報告し家族や地域からの意見やアドバイスを頂き意見交換を行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や研修等で報告をしたり、何かあれば相談している。市町村へ赴いた時意見交換行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	業務中気づきあれば、その都度注意をしている。疑問に思った事は会議で議題として挙げて、職員から意見を聞いている。職員同士声掛けして、施錠しないように取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議で必ず議題に挙げ、職員間で意見交換し虐待が行われないようケアに努めている。朝夕の会議でも、気づきあれば意見交換している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等への参加を行っていて、会議で研修の報告を聞いて支援している。だが、現在利用している利用者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際、利用者や家族へ説明を行い同意を得ている。変更あれば、その都度家族に連絡をして何度も書面を交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設玄関に御意見箱を設置している。運営推進会議等を通じ、意見交換を行っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や朝夕の引き継ぎ時もだが、大事な事は業務中でも時間を作って意見や提案を聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務形態の要望を聞き、なるべく実現出来る様に努めている。資格取得時の研修費負担を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	参加したい研修への呼びかけを行っている。各々にあった研修への参加を提案し参加してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の前は、島外の施設を視察訪問したりして、意見交換していた。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族に話を詳しく聞いている。利用者との普段の会話や聞いて欲しい訴えに応じている。カルテや業務日誌に記載し、情報共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族来訪時近況等行っている。意見があればカルテや日誌等記載している。会議で情報共有し関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族と利用者の話をじっくり聞いて、何が大事かを考えている。業務中や会議に職員から意見を聞いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者と一緒にいたり、出来る事はお願いして、してもらっている。一方的な介護にならないように心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会がなかなか出来ない環境にあるが、電話等で連絡を取り合い近況を報告している。特変時には早急に報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	通所サービスに来られている知人の方を訪問したり、ホーム内の同郷の方を訪問してもらっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず 利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努 めている	活動時の呼びかけや利用者の共同作業が 出来そうな時、利用者が関われように職員 が呼びかけて支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性 を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過を フォローし、相談や支援に努めている	外で再会したら、あいさつを行っている。家 族からしてもらう時もある。初盆参りをさせ てもらったり施設の旅行等案内をして参加し てもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努 めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話や言動をカルテや日誌に記載し 情報の共有に努めている。家族や利用者か ら話を聞いてケアプランの作成を行ってい る。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、こ れまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の面会時や電話する機会があれば、カ ルテや連絡帳に記載し把握するように努め ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等 の現状の把握に努めている	毎食前のバイタルチェックを行っている。入 浴時や清拭時に全身の観察をしている。 日々の変化や特変等カルテや日誌に記載し ていて、会議で気づき等意見交換している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方につい て、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの 意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作 成している	入所時には、気づき等を職員がモニタリング に記載しそれをもとに利用者や家族の意見 を聞いて作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別 記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介 護計画の見直しに活かしている	日中、夜間と細かい事もカルテに記載し、情 報共有を行っている。会議でも職員の意見 を聞いている。朝夕の引き継ぎで情報共有 している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎週水曜日の訪問看護の利用や病院への通院介助、散髪時の送迎または美容師の方に来て頂いて散髪してもらっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前は地区の敬老会や行事が出来ていたが、今はコロナ禍で出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診や毎週水曜日の訪問看護の相談、家族の要望あれば定期外受診や訪問歯科も行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週水曜日の訪問看護の相談内容をカルテや訪問ノートに記載し、施設内の看護師との情報共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、地域医療連携室と連絡をとり病状説明を聞いたり情報交換している。入院時病院にサマリーを渡し、退院時は病院からサマリーをもらっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の時にその時がきた場合にと説明を行う。病院、家族と話し合い同意書にサインを頂いている。看取りの利用者には、訪問診療にきて頂き、情報の共有に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの設置や職員は応急救護の研修を受けるようにしている。また、緊急時の連絡網を作成し指示に従い動くようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	コロナ禍で出来ない時もあるが、消防訓練を年に2回昼間と夜間設定で実施している。 参加できる利用者には参加してもらっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、言葉使いに注意している。他の職員の言葉使いを観察し、良いと思う職員の言葉使いを真似している。気にかかる言葉使いは、会議等で意見交換している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る利用者には、入浴後の衣類を選んでもらったり食事のメニューを聞いている。判断が難しい利用者は職員が実施している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日何をしたいか、意見を言う事が出来る利用者には意見を聞いている。一方的ではなく、利用者の意思表示を確認出来れば行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る利用者でも、選んだ服が一緒になりがちなので呼びかけて違う服を勧めている。 洗顔出来ない利用者は手伝っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いの把握をし、調理の下ごしらえを一緒に行っている。嫌がったり調子悪そうな時は、無理に進めない。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は毎日記録し制限のある利用者には制限を堅持している。食事、水分低下時には捕食や医師に相談し高カロリー食を提供している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前と食後、出来るご利用者にはして頂き、出来ない利用者には職員が介助にて行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表をチェックし排泄パターンを確認している。排泄の呼びかけや時間誘導を行い、失敗がないように心がけている。訴えがある利用者にはその都度対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	歩行練習等、身体を動かす事や乳酸菌、野菜の摂取等なるべく薬を使用せずに排便出来るように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前に呼びかけを行い、拒否があれば他の利用者と順番を変えたり職員が変わり呼びかけを行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の希望に応じて、居室で休んでもらっています。また体調が悪そうな利用者にはこちらから呼びかけを行い、休んでもらっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カルテに最新の処方箋を挟み、確認出来る様になっている。薬変更等検討時は、医師に相談しカルテ等記載し、情報を共有している。服薬時には、必ず利用者の名前と個数を声に出している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	園芸や編み物等利用者が好きな事を把握し、呼びかけ、出来るよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりは今では出来ないが、グループでドライブや施設回りの散歩や家族の希望で、同郷の利用者のユニットへ散歩に出かけている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金に関しては、事務所の金庫に保管している。希望があれば、家族に相談して使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会時家族が持ってきた手紙を見てもらい、返事を書いてもらっている。コロナ禍で会えない時電話を希望された家族には、電話で話してもらった。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	クリスマス、雛祭り等の貼り絵を一緒に作成し廊下に飾ったり装飾している。トイレの場所がわかる様に、壁や紙や刺繍を貼っている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各個人の性格を把握し、座る場所を決めているがその日の状態で場所を変ってもらっている。また利用者の居室へ自由に行き来出来る様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使われていた宗教の置物やテレビや縫いぐるみ等持ってきて頂き、落ち着く居室作りに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ソファ、テーブル等による動線の確認、のれんや目印になりそうな物を置いている。		